

生長の家の教えと実践 (4)

レシーフェ市における生長の家

レシーフェ市に生長の家が伝えられたのは1974年のことだった。当地出身の女性がリオデジャネイロ市で大学院に通っていた頃、生長の家の集會に誘われて入信。そして、レシーフェ市に戻り、自宅で勉強会を開くようになったのが始まりである。勉強会への参加人数は初回が8人だったが、1カ月後には20人となり、6カ月後には40人になっていた。

翌年の1975年にはボアビスタ大通りにある講堂を借りて始めての一日講習会が行われ、約400人の聴衆が集まった。講師はサンパウロ市にあるブラジル伝道本部から招かれた。講習会の開催を宣伝するため教団からの経済的援助を受けて、テレビや新聞といったメディアが使われた。

その後、ブラジル出身の非日系ブラジル人信者も集會を開くようになり、やがて二人は協力してダウンタウンの一室を借りて一緒に集會を開くようになった。先の一日講習会というイベントがきっかけになって、信者のネットワークが生まれたのである。

1976年には、1、2カ月に一度の割合でサンパウロから日系二世講師が派遣されるようになり、レシーフェ市の生長の家が組織化されるようになった。支部長が現地に常駐していないという状況を改善するため、1979年にブラジル伝道本部から初の支部長となる平嶺氏が派遣されたが、彼は自活するため仕事をしながらその役割を果たした。平嶺は9年間支部長の立場にあったとはいえ、その立場は名誉職だった。1990年以降、非日系人が支部長を務めるようになっていく。

1990年現在、日系人信者は平嶺氏の家族のみでその他の信者は全て非日系人である。レシーフェ市で生長の家が活動するようになってから、この状況はほとんど変わらなかった。しかし、このことはレシーフェ市の日系人社会に生長の家の信者がいなかったということを意味しない。レシーフェ市ではそもそも非日系人を対象にした集會が始められるようになったため、日本語での集會を望む信者らは関心を示さなかったのである。またその逆に、それは日本人信者で熱心に活動しようとする者がいなかったということでもある。

サンパウロ州やパラナ州といったブラジル南東部では、生長の家は日系人社会の宗教として広まり、やがて非日系人に受容されるようになった。そのため、信者の拠り所である教化部では、日本語部とポルトガル語部というように、異なる二つのグループが平行して活動するようになった。現在、それらの地域でも日本語部を有する教化部は減ってきたとはいえ、エスニシティの差異に基づく教団内での信者の棲み分けが行われてきた。

一方、レシーフェ市では日本人信者が結集することはなく、そのための核となる人物もいなかった。同市に派遣されて定住するようになった平峰氏は日本人だったが、ブラジル人信者の育成に力を注いだため、彼の周囲に日本人が集まることはなかった。レシーフェの生長の家は、そもそも「ブラジルの宗教」として展開したのである。

興味深いことに、レシーフェ市では家族の葬儀を天理教式で行った生長の家の日本人信者がいる。これは生前、「お葬式は日本人にしてもらいたい」と語っていた本人の希望によるものだという。葬祭後、家族が天理教に入信したわけではないが、教会で行われる祖霊祭には参列している。これは、葬儀に関して特定の宗教への帰属意識よりもエスニシティを優先させると

いうケースだが、実は在日ブラジル人の間でもカトリック信者が同邦のプロテスタント牧師に葬儀を依頼するケースがあることを筆者は確認している。まさに、宗教がエスニシティを「祀る」ために用いられるのである。

教化部の日常活動

ここで、信者らの活動の様子を見ておこう。信者組織は、相愛会、白鳩会、青年会の3つからなる。相愛会は40歳以上の男性会員、白鳩会は40歳以上の女性会員、青年会は中学生以上40歳までの会員で、信者はそのいずれかに属している。それぞれの会の活動場所が教化部と呼ばれる場所で、天理教やパーフェクトリパティー教団の教会に相当するといえよう。しかし、そこはあくまでも集會と儀礼を行う場で、責任ある立場の者が生活する場ではない。

レシーフェ市の教化部には3つの相愛会、4つの白鳩会、4つの青年会があり、異なる時間帯でそれぞれ2時間の集會が開かれている。それ以外にも浄心行と先祖供養があり、信者組織の区別なく誰が参加してもよいことになっている。しかし、女性の参加の度合いは高い(表参照)。

月曜	浄心行	(13:30 ~ 15:00)
火曜	アウロラ青年会	(19:00 ~ 21:00)
	アウロラ白鳩会	(19:00 ~ 21:00)
水曜	フォルサ白鳩会	(9:30 ~ 11:30)
	ボアビスタ白鳩会	(15:00 ~ 17:00)
木曜	アウロラ相愛会	(19:00 ~ 21:00)
	ユニオン白鳩会	(15:00 ~ 17:00)
金曜	フォルサ青年会	(19:00 ~ 21:00)
	先祖供養	(15:00 ~ 17:00)
土曜	先祖供養	(19:00 ~ 21:00)
	ユニオン青年会	(16:00 ~ 18:00)
日曜	ユニオン相愛会	(19:00 ~ 21:00)
	ボアビスタ相愛会	(15:00 ~ 17:00)
	ボアビスタ青年会	(17:15 ~ 19:15)

集會は、教理勉強会が中心で、信者が自主的に管理している。ペルナンブコ州全体ではレシーフェ市以外にも相愛会(1カ所)、白鳩会(11カ所)、青年会(9カ所)がある。さらに企業家と教育者を対象にそれぞれ集會が開かれる。一般企業家には月に一度「栄える会」と呼ばれる集會があり、サンパウロから講師を呼んで生長の家の教えが説かれる。1999年9月24日の集會は市内のホテルで行われ、「真実の繁栄は危機の時に始まる 成功と繁栄のための思考を得るには」というテーマで講義があった。また、同年7月18日には、ミナスジェライス州カエテにおいて第11回新教育者のつどいが行なわれ、ブラジル全土から約2,000人が集まった。レシーフェ市から会場までバスで2日の行程とはいえ、80名が参加した。またブラジル生長の家では、イビウナ(サンパウロ州)、サンタフェ(バイア州)、サンタテクラ(リオグランデドスール州)の3カ所に錬成道場を持っており、レシーフェ市からはサンタフェ錬成道場で行われる錬成会に定期的にバスが出されている。

注目すべきなのは、以上の日常活動が一般信者によって企画され運営されているということである。むろん、信者の中には講師と呼ばれる資格を持った人たちがいる。しかし、彼らも俗人である。講師は講義を行い、儀礼を主宰する。日常活動を司るリーダーへの信者の登用は彼らに一定の責任を与え、信仰を培う上で重要な役割を果たす。それが生長の家の布教と教化活動の源泉になっているとみられる。なお、教団本部には本部講師と呼ばれる聖職があることも付記しておきたい。